

横浜市立幸ヶ谷小学校 学校だより  
**KOU KOU Newsletter**

**5月号**

学校教育目標:「**自分 友だち 社会の幸せをつくる子ども**」

令和6年4月 30日発行  
横浜市立幸ヶ谷小学校

Web Site <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kohgaya/>

TEL (441) 3170

E-mail [y3kogaya@edu.city.yokohama.jp](mailto:y3kogaya@edu.city.yokohama.jp)

FAX (441) 9896



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization



UNESCO  
Associated  
Schools

## 「あいさつ」から見えること

校長 谷石 宏之

新緑の候、校庭の草花の彩りが鮮やかな季節となりましたが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

子どもたちからは、自分の学級、学年に少しずつ慣れてきている様子が伝わってきます。合わせて、5、6年生が創意工夫しながら委員会活動に取り組んでいる姿が印象的です。学校全体のことを考え、活動している様子は頼もしく見えます。

さて、入学式、そして最初に行われた朝会で「あいさつ」について子どもたちに話をしました。あいさつは、会話を交わすきっかけになる魔法の言葉であり、あいさつ溢れる学校になってほしい、と強く思っているからです。私自身、登下校時には積極的に声をかけるようにしております。

かつて、学級担任をしていた頃に、私が子どもたちに求めていた姿は、誰もが積極的に「おはようございます」「さようなら」と言葉にできること、単純に、大きな声で元気にあいさつできることでした。

4月以降の子どもたちの様子、反応はまちまちです。大きな声を出せる子もいれば、そうでない子もいます。私の顔を見る子、下を向いたままの子もいます。そばに寄ってくる子もいれば、走って通り過ぎてしまう子もいます。

ただ、この1ヶ月のあいさつを通して、幸ヶ谷小学校の子どもたちの素晴らしさもを見つけました。私自身、いちばん印象に残っており、驚いたことは、幸ヶ谷小学校の子どもたちは「会釈」が上手ということです。上手かどうか、そもそも基準はないのですが、とにかく心地よい反応が戻ってきます。

一般的な「会釈」とは、軽いあいさつを指すかもしれませんが、幸ヶ谷小学校の子どもたちにとっての「会釈」とは、時と場に応じたあいさつと言い換えることができます。登下校時には混み合うために、立ち止まることなく「会釈」をして歩いていきます。校内では、オープンスペースの教室のつくりであるため、大きな声を出さずに「会釈」をしています。もちろん、中休みに校庭で会う児童からは、総じて元気なあいさつ声が聞こえてきます。

「会釈」の語源は、『異なる意見の調和をはかる』『相手と上手く調和する』ことと聞いたことがあります。これまでの学校生活で受け継がれている、幸ヶ谷小学校のよさ、と感じました。



委員会児童がたくさんかわる

【飼育小屋】

この1ヶ月、表面的な言葉だけでは知り得ない、「あいさつの意味」を見つけようとしています。表情、声色など何気ないと思われる子どもたちの変化に気づくことができる、教職員集団でありたいと考えています。同時に、なかなか気づかない場合にはご指摘いただくこともあります。皆様の声を受け止められる教職員集団を目指してまいります。